

小坂町総合戦略 事業評価シート 【令和7年度評価分】
(奥秋田サステナブルツーリズムプロジェクト)

		担当課	観光産業課観光商工班
総合戦略における基本目標	基本目標Ⅲ「しごと」 地元産業間の連携による地域活性化プロジェクト 夢が実現する、安定した生活が送れるまちづくり		
事業名	奥秋田サステナブルツーリズムプロジェクト ～地域の強みをサステナブルな取り組みに進化させ、稼ぐ観光へ～ (新しい地方経済・生活環境創生交付金【第2世代交付金】)	実施年度	令和4年度～令和8年度 (4年目評価)
目的	国内外の環境・文化の振興を志向するすべての人々を対象に、『未来に向けて自然と暮らしを守り、活かし、つなげる。恒久なる時空を超えた、成長する・貢献する旅づくり』をコンセプトとした、北奥羽の広域的な連携による相互の発着型観光となる「旅づくりの拠点」整備と、『環境にやさしい、身体にやさしい、人にやさしい奥秋田』をコンセプトとした、「環境、産業、教育、文化、自然」などの様々な分野に当エリアの強みであるサステナブルを付加価値として新たに加えた、モノ(商品)とコト(観光)を開発し、「稼ぐ観光、豊かな暮らし」に繋げる。		
実施内容	1. エコツーリズムを核とした新たな市場開拓と稼ぐ仕組みづくり 2. 観光を活用した地域の自然・文化・経済の持続可能性向上のための態勢整備 (1) 地域における持続可能性に配慮した取り組みの拡大支援 (2) 修学旅行・農泊にかかる持続可能な実施基盤の確立 (3) 海外留学生の受け入れのためのプログラム開発、枠組みの整備		
KPI ※令和7年度末目標 ※広域連携全体	①地域への経済波及効果 23,238百万円 ②教育市場(修学旅行・教育旅行・留学)収入 8,518千円 ③農家民宿関連(農泊・農業体験・きりたんぼ作り体験等)収入 3,810千円 ④来訪者の地域のサステナブルな取り組みに対する評価(5段階評価) 4.22ポイント	KPIIに対する成果 ※令和7年度末実績 ※広域連携全体	①地域への経済波及効果 23,238百万円【仮】 ②教育市場(修学旅行・教育旅行・留学)収入 5,299千円 ③農家民宿関連(農泊・農業体験・きりたんぼ作り体験等)収入 3,658千円 ④来訪者の地域のサステナブルな取り組みに対する評価(5段階評価) 4.09ポイント

事業費(小坂町分 交付金対象額 交付金は対象経費の1/2)

(単位:円)

	令和7年度		令和8年度
	予算(当初計画申請経費)	決算(交付金交付額)	予算(当初計画申請経費)
事業費	2,270,000	945,564	2,270,000

令和7年度の取り組み

【ハード事業】

○なし

【ソフト事業】

1. エコツーリズムを核とした新たな市場開拓と稼ぐ仕組みづくり

- 潜在顧客や市場環境分析のためのマーケティング調査
 - ・秋田県と連携したデータ活用【DMP活用】
 - ・第2期DMP活用研究会開催
 - サステナビリティを主眼とした新規来訪者獲得のためのPR戦略構築
 - ・台湾最大級PRイベント「日本東北遊楽日」への出展によるプロモーション
 - ・外国人インフルエンサーを活用したエリアプロモーション
 - ・国内誘客プロモーション(ANA公式チャンネル・インフルエンサー招聘)
 - ・SNSの運用によるエリアプロモーション
 - ・WEB広告によるマーケティング支援
 - ・GoogleMapマイマップ機能の活用
 - エコツーリズムの推進とエコツアー開発のための資源発掘・体制整備
 - ・「マタギトレイル」の商品化と高付加価値化に向けた協力体制の構築
 - ・AdventureWeak2025東北招請
 - ・WAFA野外災害救急方国際資格取得・更新支援
 - 地域の持続可能性に寄与する新たな商品・サービス等の開発及び販売(文化、自然環境、地域コミュニティ、経済)
 - ・技能実習生ツアーの実施
 - ・アメッコ市旗持体験コンテンツ造成
 - ・HOBIE BASE OKUTOWADA AKITA始動
 - ・都内商店街と地元産直を繋ぐ、産地直送型取引「ハチベジ」の展開
2. 観光を活用した地域の自然・文化・経済の持続可能性向上のための態勢整備
- 1) 来訪者アンケート・満足度調査
 - ・来訪者アンケート調査の分析についてBIツールを導入
 - 2) 地域における自然環境に配慮した取り組みの拡大支援
 - ・コミュニティラジオを活用した住民への活動周知
 - 3) 修学旅行等・農泊にかかる持続可能な実施基盤の確立
 - ・インセンティブツアー(報奨旅行)の誘致に向けたモニターツアー実施
 - 4) 地元教育機関を活用した受入態勢の構築
 - ・阿仁学園と連携した商品開発と観光受入プログラムの設定

今後の取り組み

KPIは概ね達成できているためこれまでの事業を継続しながら、一部事業についてはステップアップや見直しを図る。	
1. エコツーリズムを核とした新たな市場開拓と稼ぐ仕組みづくり	
○潜在顧客や市場環境分析のためのマーケティング調査	
・秋田県や近隣DMOと連携したデータ活用・分析	
○サスティナビリティを主眼とした新規来訪者獲得のためのPR戦略構築	
・インフルエンサーや各種メディアを活用したエリアプロモーション	
○エコツーリズムの推進とエコツアー開発のための資源発掘・体制整備	
・縄文・マタギ文化を基軸としたサスティナビリティブランディング	
・「マタギロングトレイル」の商品化と高付加価値化に向けた協力体制の構築	
○近隣DMOとの連携した受け入れ体制づくり	
・十和田八幡平国立公園を巡る各種事業における連携（八幡平DMO、十和田奥入瀬観光機構、かづのDMO）	
○地域の持続可能性に寄与する新たな産品・サービス等の開発及び販売（文化、自然環境、地域コミュニティ、経済）	
・二次交通の充実	
2. 観光を活用した地域の自然・文化・経済の持続可能性向上のための態勢整備	
1)来訪者アンケート・満足度調査	
・来訪者調査内容の磨き上げ、分析精度の向上や外部専門家による改善に向けた事業提案	
2)地域におけるサスティナビリティに配慮した取り組みの拡大支援	
・地域の事業者や住民向けサスティナビリティセミナー等の啓蒙活動	
3)企業研修等の誘致と農泊の持続可能な受入基盤の確立	
・企業や学生向けサスティナビリティ学習プログラムの確立	
4)地元教育機関を活用した海外留学生受入態勢の構築	
・AKITA INAKA SCHOOLにおける外国人留学生の文化体験の深化	
（体験だけでなく、文化や伝統の背景にある歴史や課題について考える時間をプログラム化するなど）	
・学校や地域住民と協同した観光コンテンツやツアーの造成と取り組みを通じた観光教育による育成	

◆担当部署自己分析

妥当性評価	10	有効性評価	11	効率性評価	10	総合評価	達成度
町が関与すべき事業か	4	事業は効果的か	4	他に効率的な手法はないか	3	31 / 45	B 相当程度効果的であった
町民のニーズは高いか	3	成果が期待できるか	4	コスト削減の余地はないか	3		
目的・対象は妥当か	3	政策目標の実現に貢献しているか	3	受益者負担は適当か	4		

※評価基準：1－非効率、不適切 2－検討・改善余地あり 3－どちらでもない 4－効果的、適切である 5－大変効果的、最適である
※担当部署での評価【達成度】：A-非常に効果的であった B-相当程度効果的であった C-効果的であった D-効果的ではなかった E-その他

◆小坂町地域創生本部による客観的分析

妥当性評価	9	有効性評価	9	効率性評価	9	総合評価	評価
町が関与すべき事業か	3	事業は効果的か	3	他に効率的な手法はないか	3	27 / 45	B 相当程度効果的であった
町民のニーズは高いか	3	成果が期待できるか	3	コスト削減の余地はないか	3		
目的・対象は妥当か	3	政策目標の実現に貢献しているか	3	受益者負担は適当か	3		

※評価基準：1－非効率、不適切 2－検討・改善余地あり 3－どちらでもない 4－効果的、適切である 5－大変効果的、最適である
※地域創生本部での評価：A-非常に効果的であった B-相当程度効果的であった C-効果的であった D-効果的ではなかった E-その他

◆小坂町振興計画審議会による客観的検証

意見	評価

※審議会での評価：A-地方版総合戦略のKPI達成に有効であった B-地方版総合戦略のKPI達成に有効とは言えない